

鉄砲洲神社詩吟 素読論語解説

(平成 25 年 2 月 1 日)

【十】子張 徳を崇くし感いを辨えんことを問う。子曰く、忠信を主とし、義に従るは、徳を崇くするなり。之を愛しては其の生きんことを欲し、之を惡みては其の死なんことを欲す。既に其の生きんことを欲し、又其の死なんことを欲するは、是れ惑なりと。

子張は孔子が 60 歳代に入ってから弟子で、孔子より 48 歳若いお弟子さんです。かなり柔らかく好好爺みみたいな調子で話しているのだらうという気がします。

子張が徳を尊重してどうすれば迷わなくなるかという諺を、引き合いに出して質問をしました。孔子が言うには、誠実で約束を守り、信頼の厚い人間と交われば良い。そのような人達と主としてお付き合いをなさい。正しいことに段々近づいていくという物の考え方・行動は、自分自身の徳を高くするものである。良い人とお付き合いをなさいということですかね。次は面白いなと思うのですが、その人のことを愛している時には、長生きをして欲しいと思うけれども、一端その人間を憎んだら早く死んでしまえば良いと思う。同じ人のことを長生きして欲しいと思うが、また状況が変わったら死んでしまえと思ったりするのは、迷いである。

これを今の時代に置きかえると、今回の自民党が、お年寄りが孫へ教育用に贈与するのは良いことだから、1500 万円位までは贈与しても非課税にする方針をとりました。この一点でみましても、お祖父さんが 1500 万円の枠で贈与をしようと思って、たまたま発表してしまった。そうすると孫からみて良いお祖父さんだと思っていたのが、贈与の 1500 万円が欲しくてお祖父さんが早く死んでくれないかなと思うようになり、なかなか死なないと早く死んでくれないきゃ駄目じゃないと思ったりもする。これは政治が人の心を操ったりもすると捉えたりもできます。贈与税の扱いが変わった事について孫の心がコロコロと変わるのが、ここの惑いという部分です。または、あなたに愛している人がいます。でも何かの拍子で痴話喧嘩をしてしまいます。その時には可愛さ余って憎さ百倍みたいなもので、逆の気持ちになったりもする。そこら辺の気持ちの裏表は一体ということで、氣をつけてお付き合いされたら良いですね、という風にここを捉えても良いでしょう。自民党の贈与税と男女間のもつれみたいなものと、色々な角度から解釈ができます。

【一一】齊の景公 政を孔子に問う。孔子対えて曰く、君 君たり。臣 臣たり。父 父たり。子 子たりと。公曰く、善いかな。信に如し君 君たらず、臣 臣たらず、父 父たらずんば、粟有りと雖も、吾 得て諸を食わんやと。

齊の景公は 58 年間王座に就いていたという事ですけれども、現実には就いていたかといえ
ば疑問符です。でもかなり長い間王座にいたと考えれば良いでしょう。

齊の景公が孔子に、良い治世の方法を教えて貰いたいと質問をしました。ここら辺は、
徳川家康が儒学は良いといったベースになっている部分です。孔子は、「主君は主君らしく、
家臣は家臣としての分を守る。父親は、父親らしく、子は子らしく、父親を尊敬しなけれ
ばいけない」景公は、「それは良いことだね、本当に主君が主君らしくなく、家臣が家臣ら
しくない場合、父は父らしくない、子は子らしくない場合は、食糧がたっぷりあったとい
えども、自分自身は安心してこれを食べる事はできない。主君は主君らしくあり、家臣は
家臣らしくならなければ、なかなか安心して食事することはできない」という風に言われ
たという話です。

【一二】子曰く、片言しいわ以て獄へんげんもつを折ごくむべき者きだは、其れ由ものなるかと。子路しる 諾だくを宿とどむること無
し。

孔子が言うには、一方の話を聞いて、正しい判断や判決を下せるのは、子路しかいない。
子路は判決を下したのや、すべきと思った事は、その日の内に実行して延ばさなかった。
腹を決めたら、その日の内に全て決裁をした。子路が決裁したものについて、誰も異論を
言うものがいなかったの、子路は素晴らしい能力を持っているといえよう。

いつも孔子は子路のことを茶化すことが多いけれども、ここではかなり褒めています。
決断の人物ということで、今までの子路のことを言っていたものの名誉回復になっている
なという気がします。